

2014年 1月 15日

お客様各位

株式会社 セゾン情報システムズ
HULFT 事業部

iDIVO Ver.1.5.0 へのレベルアップ後に集信後ジョブが 2 回起動される障害 に関するお知らせ

iDIVO の HULFT プロトコルのカートリッジにおきまして、下記障害が発生しましたので、
ご報告いたします。

- 記 -

1. 対象カートリッジ

iDIVO HULFT プロトコル (UNIX) Ver.1.5.0
iDIVO HULFT プロトコル (Linux) Ver.1.5.0
iDIVO HULFT プロトコル (Windows) Ver.1.5.0

2. 障害内容

Ver.1.5.0 未満の iDIVO Base からレベルアップを実行後に集信を行うと、集信後の正常時ジョブ
またはジョブフローが 2 回起動されます。

3. 発生条件

下記の条件をすべて満たす場合に発生します。

- ・ 集信管理情報の「正常時の後処理」で「ジョブ起動」または「ジョブフロー起動」を設定している
- ・ 上記の管理情報を持つ Ver.1.5.0 未満の iDIVO Base を Ver.1.5.0 へレベルアップする
- ・ HULFT プロトコルの集信処理が正常終了する

4. 回避手順

Ver.1.5.0 へのレベルアップを実行前の場合

- ① 集信管理情報をエクスポート (baseigen) する
(実行例) baseigen -f 任意のファイル名 -i rcv
- ② Ver.1.5.0 未満の iDIVO Base を Ver.1.5.0 にレベルアップする
- ③ ①でエクスポートした集信管理情報を上書き指定でインポート (baseiupdt) する
(実行例) baseiupdt -f ①でエクスポートしたファイル名 -r

Ver.1.5.0 へのレベルアップを実行済みの場合

- ① 集信管理情報をエクスポート (baseigen) する
(実行例) baseigen -f 任意のファイル名 -i rcv

② エクスポートしたパラメータファイル内のJOBWAIT タグに、レベルアップ前に指定していた値を指定する

(例) JOBWAIT,T

※ JOBWAIT (完了通知) には、T (受信完了) または J (正常時ジョブ完了) のいずれかを指定します。新規登録時の初期値は T (受信完了) です。特に変更していない場合は T (受信完了) を指定してください。

③ ②で修正した集信管理情報を上書き指定でインポート (baseiupdt) する

(実行例) baseiupdt -f ①でエクスポートしたファイル名 -r

5. 今後の対応

2014年2月5日にリリース予定の Ver.1.5.0A で対応いたします。リリースに先立ち、2014年1月22日にモジュールのみ提供予定です。

以上